

第1学年 道徳学習指導案

1、主題名 あいさつ【2－（1）礼儀】

2、資料名 「あいさつがきらいな王さま」

（出典；どうとく2年あすをみつめて 日本文教出版）

3、主題設定の理由

○ねらいとする価値について

子どもたちは、地域や家庭、学校の中で、家族や友だち、教師と触れ合いながら、よりよい生き方を求めて生活している。しかし、めまぐるしい社会変化に伴い、私生活重視傾向の影響が出てきて、周りの人とのコミュニケーションを取ることや他の人との関係のあり方に潤いがかけてきていると思われる。このような中での何気ないちょっとした「あいさつ」は、人と人との心を結びつけていくものであり、お互いの心を和ませるものである。そこで、あいさつがお互いの気持ちを明るく楽しくするということが気づかせ、低学年なりの礼儀作法の意義についても考えさせたい。

○児童の実態について

本学級の児童は、学校生活や新しい友だちにも慣れ、明るく元気に過ごしている。あいさつに関しては、その必要性は、ほとんどの児童が感じてはいるが、なかなか実践には結びついていない。2学期に入り、クラスでの友だちとの関わりが密になってきた反面、馴れ合いからかあいさつをしなくなったり、行動範囲が広がって自分の都合だけで物事を考えてしまいがちになり、あいさつをすることを面倒くさがったりする児童も見受けられるようになった。また、一斉での朝のあいさつや帰りのあいさつなどは元気よくできるが、普段の生活の中では、教師からあいさつをしないとできない児童もいる。

○資料の活用について

本資料は、童話による無理のない説話である。あいさつの嫌いな王さまがあいさつを禁止するおふれを出し、その後の国の様子や人々の様子であいさつの意味に気づいておふれを取り消し、その国があいさつと笑い声のあふれる楽しい国になったという話である。クラスの中には、あいさつが互いに心を和ませ、あいさつをすることはいいことだとわかっていながら、「はずかしい。」と思っている児童もいる。また、友だちと遊んだり話したりすることが多くなり、動作や行動も活発になることで「めんどくさい。」「別にしなくても・・・。」と思っている児童もいる。それだけに、「めんどくさい。」「しなくても・・・。」という王さまの気持ちと自分の気持ちを置き換えて本音を引き出しやすいと考える。つい自分からあいさつをしたことで、元気よくあいさつをすることの大切さに気づいた王さまに共感させることにより、あいさつをすることは気持ちのよいこと、あいさつが周りの人の心を明るくし、自分の心も明るくしてくれる元気の源であるということに気づかせることのできる資料である。

○指導の観点

本時の指導にあたっては、まず、児童を資料の中に引き込み、話の展開に興味を持たせるために、王さまの表情や様子が分かり易い大型紙芝居を用いて資料提示を行う。また、王さまの表情がわかる顔、王さまのせりふ、おふれなどを黒板に提示しながら話し合いを進めることにより、王さまの心の変化を視覚的に捉えさせたい。表現の場の工夫としては、「あいさつだいすき」の歌を聞いて、「なにかおかしい。」と考え込んだ王さまの気持ちを役割演技することで王さまの葛藤する気持ちにじっくりと共感させたい。そのことにより、ついあいさつをした王さまの心の変化に気づかせ、さらにはあいさつのよさを感じ取らせたい。展開段階では王さまへの手紙を書くことで自分の振り返りを図り、終末にはあいさつが上手な友達を紹介し、実践への意欲付けとしたい。

4、ねらい

あいさつは周りの人だけでなく、自分の心も明るくすることを知り、気持ちよくあいさつをしようとする意欲を高める。

5、展開

学習活動	主な発問（○）と予想される児童の反応（・）	指導上の留意点	備考
1 あいさつについて考える。	○ あいさつはした方がいいかな。また、それはなぜかな。 ・ したほうがいい。 気持ちがいいから 元気が出るから ほめられるから ・ しなくてもいい めんどくさいから はずかしいから	○ 今までの生活を振り返らせることで、資料への意欲を高めると共に、「あいさつはした方がいい。」の一方になるのではなく子どもたちの本音の部分も明らかにする。	
2 資料「あいさつがきらいな王さま」（前半）を視聴し、王さまの気持ちについて話し合う。	○ 王さまは、なぜおふれを出したかな ・ 毎日、朝から晩までたくさんの人にあいさつをされてうるさかったから ・ あいさつがなくなってすっきりするから ○ 「おかしい、なにかおかしい。」と考え込んだ王さまはどんな気持ちだったかな。 ・ あいさつは、したほうがいいかな。しないほうがいいのかな。 ・ わしは、あいさつがきらいだったはずなのに、どうして歌いたくなかったのかな。 ◎ うっかりあいさつをしてしまった王さまは、どんな気持ちかな。 ・ あっ、言ってしまった。 ・ おふれを出して、悪かったな。 ・ これからは、あいさつをしよう。 ・ あいさつは気持ちがいいな。 ・ わしが、間違っていた。	○ 大型紙芝居を使いながら、教師の語り聞かせて行う。 ○ 王さまの顔とせりふを提示することで、王さまの気持ちを話の筋にしたがって考えさせたい。 ○ お面をかぶって役割演技を取り入れることで、葛藤する王さまの気持ちに共感させたい。 ○ あいさつは、自分や周りの人の気持ちを良くさせることに気づかせる。	大型紙芝居 おふれ 王さまの表情絵 せりふ 王冠 王さまの顔 王さまの顔
3 資料後半の話聞く。	○ 今、前みたいにあいさつが嫌いかな。	○ あいさつを嫌っていた王さまと今の王さまの気持ちの変化を押さえさせたい。	
4 王さまへ手紙を書く。	○ あいさつが嫌いだった王さまに手紙を書こう。	○ 児童の思いを十分に書けるように、時間を確保したい。	ワークシート
5 教師の話聞く。	○ あいさつが上手なお友達がいるよ。 ○ 先生が、あいさつをされてうれしかったときのことを紹介するよ。		